

2011年1月13日

境港市長 中村勝治 様

日本共産党境港市議団

定岡 敏行

松尾 好行

## 豪雪被害から地域農漁業と市民生活を守る緊急要望

大晦日からの歴史的な豪雪は、大規模な停電や数日におよぶ交通遮断などで市民生活に重大な支障をきたすとともに、雪の重みによる漁船の転覆やビニールハウスなど農業施設の倒壊と、農漁業関係でも甚大な被害をきたしました。

市当局が元旦には対策本部を立ち上げ、市長先頭に職員総出で除雪作業や高齢者の安否確認、必要な生活物資の配達、被害状況の把握にと尽力されましたことに、心から敬意を申し上げます。

特に転覆した199隻の船舶のうち、約2割の36隻は生業にかかるもので、この対策は、漁業基地の境港のこれからの重大な影響を与えるものです。

被害を受けた9トンのイカ釣り船主の関係者は、「引き上げ費用やエンジン、発電機の修理に漁船保険が適用されても、電機系統(航海機器、漁撈機器、無線、イカ釣り機、集魚灯)などの自己負担が1千万円以上かかる。事業を続けることは難しい」と言うなど、「廃業しかない」との声も聞かれます。

県漁連の景山組合長は、「いま気が動転しているから廃業すると言っているが、再起を願うのは当然。応援しなければいけない。国や県、市に応援を求めたい」と語っています。

事情は被災農家にとっても同様です。ハウスや作業場が倒壊したネギ農家のみなさんは、「修復だけで2,3百万円はかかる」と言われ、「雪の重みで葉は折れ規格外、商品価値は失われ」、「夏ネギもトンネルが全壊」、「苗も潰れたハウスの下敷き」・・・と、「このままでは夏まで収入がない」と訴えています。

「うちの親は“38 豪雪“で農業を止めた」と言う農家の方がいましたが、この豪雪被害がまた、離農のきっかけとなってはなりません。

豪雪被害が漁業基地としての灯、地域農業の灯を消すことにならないよう、また市民の暮らし応援へ、国、県、市の最大限の支援を要望するものです。

## 要望事項

### 【農漁業関係】

- ① 船の引き上げや修繕、ハウスの撤去や新設、農業用施設修理への助成、融資だけに留まらぬ直接支援に万全を期してください。
- ② 国による激甚災害指定要件の緩和を強く要望してください。
- ③ 被害状況と被災した農漁業者の要望の把握に万全を期してください。
- ④ 被災した農漁業者の再建までの生活も含めた相談体制を充実してください。

### 【市民生活関係】

- ① 一般家庭の被災家屋の修繕、倒木処理費用などの助成措置をとってください。
- ② 倒木や枝木の持ち込みができない高齢者世帯などへの“臨時ふれあい収集”を実施してください。
- ③ 異常気象が続いています。この冬場に再度のゲリラ豪雪が無しとは言えません。今回の教訓を活かし、特に迅速な除雪体制の強化および灯油や食糧など非常時の生活物資の確保、高齢者を孤立させないシステムの構築を講じてください。